

コラム谷戸の風 第2集

## 私が職場体験を紹介している事について（笹川妙子）

2017年1月25日、奈良ばい谷戸に、元気な職場体験の中学生の声が響き渡りました。

**職場体験**とは文科省の教育実践プロジェクトの一環としてスタートした制度で、子どもたちが自分の生き方をみつけ、人とかかわりながらたくましく生きる力を身に付けること、地域と学校、行政が一体となって地域全体で中学生の健全育成をはかることを目的としています。町田市では、2005年度より市立中学2年生全員が5日間の職場体験を行っています。

「まちだ結の里」では、2012年9月から忠生中学と小山田中学の職場体験受け入れを開始しました。

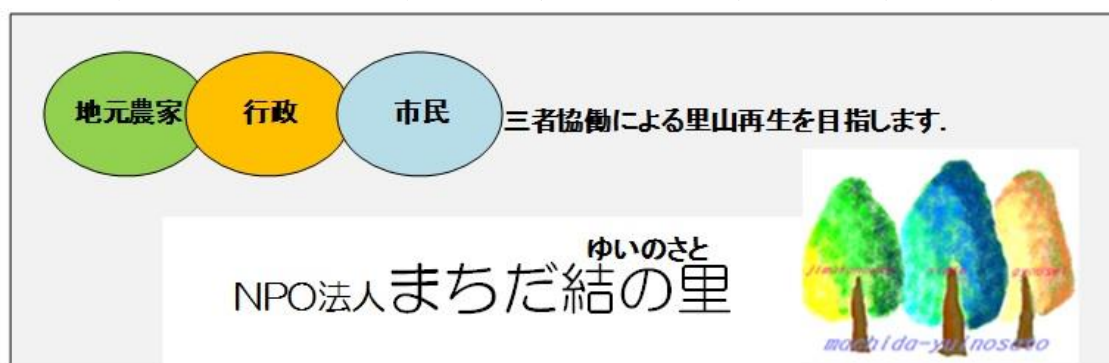


なぜ一日だけの受け入れなのか？

実は、函師町の河合農園で農業体験として受け入れをしているのですが、河合さんは專業農家ではなく、現役の公務員です。連続5日の受け入れは難しいところがあるため、結の里で里山農業体験として一日受け持ってもらえないかとの依頼がありました。

私が仲介役となり、結の里で検討の結果、生徒たちに里山型循環農業を体験してもらおうということになり、現在まで受け入れが続いています。

なお、私と河合さんは、町田市農業研修2期生の同期生で、2年間



万松寺の研修所にて共に学び、汗を流した研修仲間です。ちなみに、私は、結の里での受け入れ日の他にも期間中何日か、河合農園で生徒の指導に当たっています。

これまでに体験した生徒は 40 人ほどおりますが、実に多様です。とても積極的で何にでも挑戦しようとする子、指示待ちで自分からは何もやろうとしない子、何かを吸収しようとして一生懸命な子、わいわいと楽しむだけの遊び感覚の子などさまざまです。しかし、一日



の活動の終わりには、どの子も仕事を成し遂げてちょっぴり自信がついた表情に変わります。また、協力することの大切さを学びます。

ここで学んだ生徒たちは、奈良ばい谷戸の周辺に住みながら、その存在を知らなかった子がほとんどです。大勢の人の手により蘇った美しい里山がすぐ近くにあり、今も、その活動が続いていることを学んで帰ります。

生徒たちが大人になって、里山の保全活動に加わったという体験をなつかしみながら、いつか活動に参加してくれる日がやってくる事を密かに期待しています。

畑の中に学校名や参加生徒の名前などを記した板が、ところどころに立っているのを見かけませんか？

生徒が開墾をした場所などに立てられています。最初の 1 枚は、2012 年 9 月忠生中学。そろそろ、文字が薄くなって読み取りが難しくなってきたでしょうか。

